

「失敗を恐れず 挑戦できる環境を」

校長 原 拓史

今年度、校長を務めさせていただきます原拓史と申します。どうぞよろしくお願い致します。P T A会員の皆様におかれましては、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年度より本校はS A H (Stedent Agency HighSchool)の指定を受け、「自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成」を目指して取組を開始しました。昨年度のうちに、野球部の応援ツアーや希望者対象のスキー教室、アイスクリームの自動販売機導入、校則の見直し、他いくつもの取組が生徒の立案で行われました。これらは問題点の抽出、合意形成、実施まで生徒主体で行われたものでした。

今年度はS A Hの二年目となります。取組として授業、学習、進路指導、生活、学校行事、部活動にわたる十二項目を考えています。詳しくはS A Hジャーナルの三十三号を見ていただければと思います。「生徒主体」であることを生徒の日常生活の中に根づかせていく取組になるかと思っています。

「生徒主体」の取組を推進していくとき、その取組は必ずしもスムーズに成功するものではなくなります。生徒が悩み、時には失敗するという場面が出てくることでしょう。この、失敗まで含めて主体性であると考えていきたいと思っています。失敗を振り返り、自身で再挑戦したり、次の世代に引き継いだりして、よりよい取組に成長させていく。これがS A Hの良さだと思います。「生徒が失敗を恐れすぎず、主体的に挑戦できるような環境」を作れると良いと考えています。